

今への対応、次への備え

リスクマネジメント研究部会部会長 上倉秀之

中国武漢から世界に広まった新型コロナウイルスは、新興感染症の怖さを我々に痛感させています。JFMA関係でも医療機関勤務の方やライフライン、物流、生活基盤業界の方など多数の方がこの感染症と闘ってくださっています。心から感謝するとともに御身の無事を祈念申し上げます。

◆今への対応

新型コロナウイルスは、これまで企業が取り組んできた地震や風水害などの「最初の一撃」対応を主軸としていたリスク対応とは異なる「漸減的脅威」へのリスク対応が求められました。また、世界規模の流行は広域のリスク対応が求められるため代替え措置が効かないケースや、サプライチェーンへの大きな影響も見られました。

マスク・消毒薬等の不足や建材の調達などに支障が出ており、今後も当分の間は影響を受けると考えられます。

危機対応は準備してきたこと以上の対応はできません。訓練してきた対応と調達できた資機材を活用するしかありません。残念ながら、選ばなかった道を悔いても仕方がないのがリスクマネジメントです。

感染予防対応は、入手できた資機材と施設特性に合った運用で乗り切らざるを得ません。ここでリスク担当者を悩ませている要員の一つが「期間」の問題だと思います。いつまで、どの程度の対応を行うかによって経営資源の活用や費用が変わってきます。しかし、この問題は現時点での定見が無く、予測が立たないのが現状です。このため、対処療法的に調達可能な資機材・対応可能な人員での運用を短期のサイクルで見直しを行い実施することとなります。

また、FM関係のリスク担当者の役割として重要なことは「正しい情報の提供」です。

今回の新型コロナウイルスにおいても多数のデマやフェイクニュースが蔓延しています。「日本赤十字の病院内関係者」を名乗るデマメールは「善意のシェア」によって拡散し、病院に問い合わせが殺到して業務の妨害となった例もあります。トイレトペーパーの買い占め・欠品もSNSのデマ投稿が発端とされています。

リスク担当者は様々な情報源から正しい情報を入手していますが、一般の社員の方は必ずしも同様の情報を得ているわけではありません。テレビのコメンテーターも、中にはタレントや門外漢も多くコメントもすべてが正しい訳ではありません。

今回の新型コロナウイルスはテレワークの導入と言う情報伝達の革新が急速に浸透しました。このような流れの中でリスク担当者として情報の活用と周知の取り組みが重要となって来ます。

災害時には情報が錯綜し、デマやフェイクニュースが数多く流布します。一方、社員間でニーズや情報の収集・分析・発信等を行う環境はテレワーク導入によりかなり整っています。今回の新型コロ

ナウイルス感染拡大防止を、組織の情報活用力の強化と情報文化の醸成の機会と捉え取り組むことも肝要です。

◆次への備え

眼前の新型コロナウイルス対応で多忙を極めているとは思いますが、「次への備え」の取り組みも重要です。

「次」とは、「コロナ後の新時代」と「次の災害(リスク)」です。

世界規模の感染拡大と一気に普及したテレワークはコロナ後の社会に対して大きな変革を求めてきます。特に、オフィスニーズについてはこれまでと異なる要求も多くなるとわれ、デザインや施設設備の陳腐化、東京一極集中の再考など様々なニーズが生まれてきます。

感染症の流行には何回も波があるようですから、今回の新型コロナウイルスも一旦は収まっても再興する可能性もあります。消毒や清掃がやり易い内装やウイルスが不活性化しやすい材質、空気の清浄システムなどが求められると思います。また、仕事の進め方の変化によりオフィスやミーティングスペースの在り方も変わっていきます。サテライトオフィスや在宅のオフィス空間も変化します。

このような、新時代のファシリティ要求の再確認を行うのはまさに今だと思います。

「鉄は熱いうちに打て」の諺の通り、今まさに進行中の変革を捉えて次のFM戦略に生かすことがリスクマネジメントとしても重要です。

また、近年発生している豪雨や台風などの風水害、地震、火山噴火などの自然災害や、事件・事故・テロ等のリスクも忘れてはならない問題です。

テレワーク等の対応によるリスク分散の一方で、リスク顕在化の場合の対応要員の不足が懸念される事もあります。必要な資機材も不足がちになっていますし、「出社困難」の問題もあります。

従来実施してきた「社員出社時の防災訓練」では現在の状況には対応できません。業種・業態に応じた緊急時体制を早急に見直し、ネットワークによる安否確認・災对本部運用・情報収集共有を構築し訓練する必要があります。

緊急時対応マニュアル類が会社にあるためとの理由で先送りすることは危険です。

今できることを、今できる範囲で対応し、PDCAを回していくことが重要です。連絡先リストの見直しと対応手順の再検討をすることが肝要です。

「安全」と「快適」はFMの両輪です。

新型コロナウイルスが少しでも早く鎮静化することを祈りつつ、次への取り組みを粛々と進め、よりリスクに強い組織と社会創りを進めてまいりましょう。

【参考となるサイト】

日本感染症学会

<http://www.kansensho.or.jp/>

日本環境感染学会

<http://www.kankyokansen.org/>

日本小児感染症学会

<http://www.jspid.jp/>

日本産婦人科感染症学会

<http://jsidog.kenkyuukai.jp/information/>

日本建築学会

<https://www.aij.or.jp/>

東京大学災害対策トレーニングセンター

<http://tdmtc.tokyo/>

リスク対策.com

<https://www.risktaisaku.com/>

国土交通省・コロナ関係情報

https://www.mlit.go.jp/kikikanri/kikikanri_tk_000018.html

経済産業省・コロナ関係情報

<https://www.meti.go.jp/covid-19/>